

こころこころ平成 30 年度あいさつ

急速に少子高齢化が進む中、我が国では、2025 年にいわゆる「団塊の世代（昭和 22－24 年生まれ）」が全て 75 歳以上となります。平成 29 年版高齢社会白書によると、2065 年には、約 2.6 人に 1 人が 65 歳以上、約 4 人に 1 人が 75 歳以上となり、2015 年には、高齢者 1 人に対して現役世代（15－64 歳）2.3 人で支えていたのが、2065 年には、1.3 人となることが推定されています。こうした中、国は、医療と介護の一体的な改革を実行に移すため、それまで別々に改定されていた、医療計画と介護保険事業計画を、今年度から同時に改定しました。これは、介護ニーズについても、医療ニーズを併せ持つ重度の要介護者や認知症高齢者が増加するなど、医療及び介護の連携の必要性はこれまで以上に高まってきていることを反映しています。特に、認知症への対応については、地域ごとに、認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れを確立するとともに、早期からの適切な診断や対応等を行うことが求められています。これらの計画を絵に描いた餅ではなく、魂あるものとするためにも、改めて気持ちを引き締めて参ります。

院内におけるこの 1 年を振り返ると、平成 29 年 3 月の新しいデイケアステーションの開設を受けて、様々なプログラムを引き続き進めてきています。抗精神病薬の効果が乏しい統合失調症患者さんへの効果が期待される薬剤であるクロザピンについては、これまで 14 人の方に使用し、現在 10 人の方が使用を継続しています。また、当院の医師、作業療法士らが厚生労働科学研究の中で作成した「カードゲーム型依存症治療ツール ARASHI（アラシー）」は、アルコールや薬物といった依存性物質の再飲酒や再使用につながりそうな状況を想定し、仲間と共に対処能力を養うためのゲームツールで、学会発表も積極的に行い、全国に広めるべく発信しています。加えて、認知症初期集中支援チームとの連携も順調で、地域で医療的な対応が急がれる認知症の方へ迅速な診療を実施しています。

私は、こうした様々な取り組みを進める上で大切なのは「志」だと考えます。「志を以て」は吉田松陰の言葉で、重要な仕事をする者は、才能や知識などを頼みとするのではなく、何のためにそのような仕事をしているかを考えて、気持ちを奮い立たせ、仕事に励むことにより、達成することができると書いています。当院職員一人一人が「志を以て」、今後も引き続き県民の皆さんのより良いこころの健康をめざしてまいりますので、よろしくお願い致します